

## 授業科目

## 看護診断学

担当教員名 山田 紋子	対象学年	2	対象学科	看護
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

## ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
○	○			○

## 授業の概要

看護診断を用いて看護過程を展開するための基礎を理解するために、アセスメントの枠組みと視点、アセスメントする際に必要な中範囲理論、NANDA-I看護診断を活用する意義および構成要素、看護診断を用いた看護過程の展開方法を学ぶ。

## 授業の目的

NANDA-I看護診断の概要を理解し、看護診断を用いて看護過程を展開するための基礎を習得する。

## 学習目標

1. 看護過程における看護診断の意義について説明できる。
2. NANDA-I看護診断における定義・診断指標・関連因子・危険因子とは何かについて説明できる。
3. 問題焦点型看護診断、ヘルスポモーション型看護診断、リスク型看護診断の違いについて説明できる。
4. NANDA-I分類法IIにおける領域（ドメイン）および類（クラス）の違いについて説明できる。
5. 紙面事例について、NANDA-I看護診断を用いた看護過程の展開を考えることができる。

## 授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	看護過程と看護診断の概要	講義	山田 紋子
2	アセスメントの枠組みと視点	講義	山田 紋子
3	アセスメントに必要な中範囲理論 1	講義	山田 紋子
4	アセスメントに必要な中範囲理論 2	講義	山田 紋子
5~8	事例展開（グループワーク）	講義・演習	山田 紋子

## 使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書						
参考書	NANDA-I看護診断：定義と分類 2015-2017	T. ヘザー・ハードマン、日本看護診断学会	医学書院	2015年	3,000円＋税	
	看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第2版	黒田裕子	Gakken	2015年	3,456円	
その他の資料						

## 評価方法

テスト60%、演習の内容（討論・発表を含む）40%

## 履修上の留意点

「看護理論」、「看護過程演習」、「病態生理・治療学」等の既習学習の知識を十分に活用されることを期待しています。

## オフィスアワー・連絡先

授業内容の質問・相談がある学生は、所属学科・学年・学籍番号・氏名・用件を記入の上、office-hour@nuhw.ac.jpへご連絡ください。